

テーマ：消費者物価（全国11月、東京都区部12月） 発表日：2011年12月28日（水）
 ～12年3月以降にマイナス幅が拡大する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 首席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
10	1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	10.9	▲1.5	▲2.1	▲2.0	▲1.4	14.2	▲2.0
	2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	11.5	▲1.4	▲1.8	▲1.8	▲1.3	12.7	▲1.6
	3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	12.0	▲1.8	▲1.7	▲1.8	▲1.2	14.2	▲2.0
	4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	13.2	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4	13.1	▲1.8
	5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	15.7	▲1.7	▲1.4	▲1.5	▲1.4	16.5	▲1.9
	6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	12.3	▲1.3	▲1.0	▲1.3	▲1.4	11.8	▲1.7
	7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	7.8	▲1.4	▲1.2	▲1.3	▲1.4	5.9	▲1.9
	8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	7.0	▲1.3	▲1.0	▲1.1	▲1.4	4.4	▲1.7
	9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	4.0	▲1.4	▲0.6	▲1.0	▲1.3	1.7	▲1.6
	10月	0.2	▲0.6	▲0.8	4.0	▲1.3	0.3	▲0.5	▲0.6	3.7	▲1.2
	11月	0.1	▲0.5	▲0.9	5.0	▲1.2	0.2	▲0.5	▲0.6	4.1	▲1.1
	12月	0.0	▲0.4	▲0.7	5.8	▲1.1	▲0.1	▲0.4	▲0.5	4.7	▲1.3
11	1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	8.4	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲1.0	8.4	▲0.8
	2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	7.6	▲1.0	▲0.5	▲0.8	▲0.9	6.3	▲1.0
	3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	12.5	▲0.8	▲0.7	▲0.8	▲1.0	12.4	▲0.9
	4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	12.6	0.0	▲0.7	▲0.5	▲1.0	13.4	0.0
	5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	9.3	▲0.1	▲0.6	▲0.4	▲0.6	9.6	▲0.4
	6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	7.9	▲0.3	▲0.6	▲0.4	▲0.7	7.7	▲0.6
	7月	0.2	0.1	▲0.5	9.8	▲0.2	0.1	▲0.1	▲0.4	10.8	▲0.3
	8月	0.2	0.2	▲0.5	11.7	▲0.1	▲0.2	▲0.2	▲0.6	13.1	▲0.4
	9月	0.0	0.2	▲0.4	9.7	▲0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.4	9.1	▲0.5
	10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	7.7	0.2	▲0.5	▲0.4	▲1.0	7.2	▲0.4
	11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	7.5	0.2	▲0.9	▲0.5	▲1.2	7.7	▲0.4
	12月	—	—	—	—	—	▲0.4	▲0.3	▲1.1	9.1	▲0.2

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

(注)2010年12月以前の前年比は05年基準の値

○ 2ヶ月連続の前年比マイナス

総務省より発表された2011年11月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.2%と、事前の市場予想通りの結果となった。前年比での下落は2ヶ月連続で、マイナス幅も前月から小幅拡大している（季節調整済み前月比は横ばい）。物価の緩やかな下落傾向が続いていることを確認させる結果である（7～9月の上昇は、たばこや傷害保険料などの制度要因やエネルギー価格の上昇によるもの）。品目別では、過去の燃料価格の上昇を反映して電気代やガス代のプラス寄与が拡大した一方、外国パック旅行やテレビが前月と比べての押し下げ要因になっている。

また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）は前年比▲1.1%となり、前月（同▲1.0%）から下落幅が拡大した。季節調整済み前月比でも▲0.2%（10月：同▲0.4%）と下落している。前月比での下落は4ヶ月連続であり、下落幅も大きい。物価下落圧力の根強さを窺わせる結果と言えるだろう。

○ 12年3月以降、マイナス幅が拡大する見込み

東京都区部の動向から判断すると、12月の全国CPIコアも前年比▲0.2%と、3ヶ月連続の下落が予想

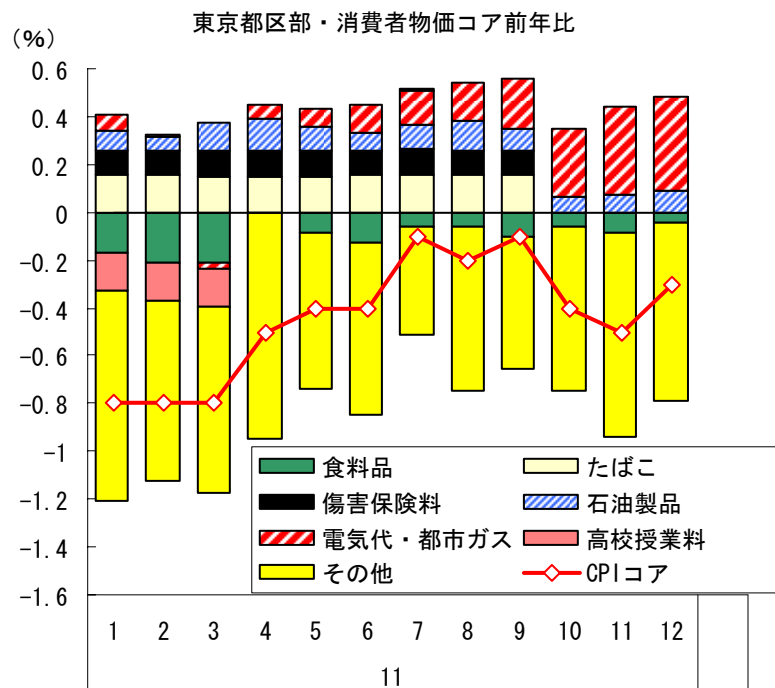
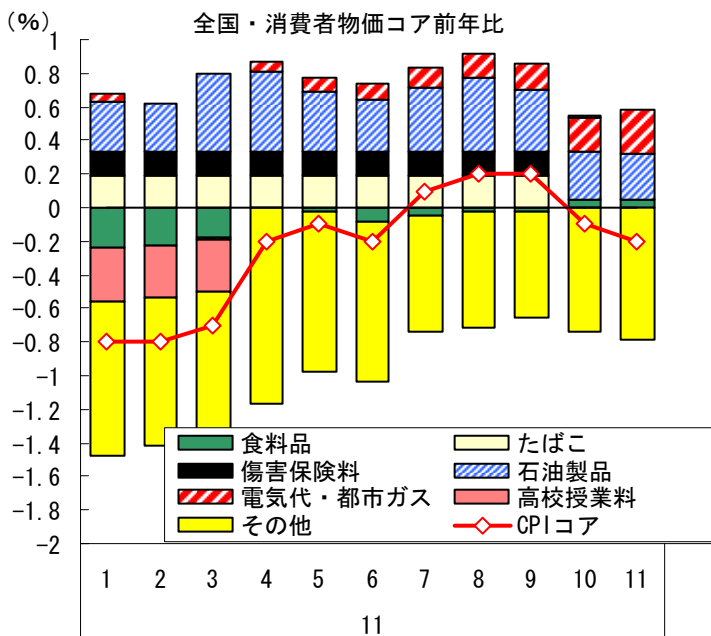
される。また、その先についても下落傾向が持続する可能性が高い。景気減速が明確化し、需給ギャップの改善が滞ることに加え、前年の同時期に石油製品価格が上昇していた裏が出ることなどが背景にある。特に2012年3月以降にマイナス幅が大きく拡大すると見込まれ、2012年の4～5月頃には前年比で▲0.6%～▲0.8%程度まで下落幅が拡大してもおかしくないだろう。物価が基調としてプラスになる時期は、まだ展望できる状況にはない。

日銀展望レポートでは2012年度のCPIコアが前年比+0.1%、政府の経済見通しでもCPI総合が+0.1%と予想されている。おそらく年度後半にCPIがプラスに転じるとの想定が置かれていると思われるが、足元の経済状況を踏まえると強気過ぎるように思える。これらの見方は、今後下方修正される可能性が高いだろう。

○ 東京都区部の動向

2011年12月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.3%（11月：同▲0.5%）となり、市場コンセンサスの同▲0.4%をやや上回った。季調済み前月比では+0.1%（11月：同▲0.2%）である。エネルギー価格のプラス寄与が拡大したことや、食料品価格のマイナス寄与が縮小したことが影響している。

また、米国型コアでも前年比▲1.1%と下落幅が縮小しているが（11月：▲1.2%）、季調済み前月比では▲0.1%と、3ヶ月連続の下落となっている。内訳では、このところ押し下げ要因になっていた宿泊料や外国パック旅行が前月から改善した一方、販売台数が激減しているテレビがマイナス寄与を拡大させている。なお、電気代、ガス代については、年内いっぱい上昇が続くとみられるが、年明け以降は前月比で低下に向かう見込みである。



（出所）総務省「消費者物価指数」

（注）2010年12月以前の前年比は05年基準の値